

東浦町団体ヒアリング調査 開催記録

1. 開催概要

東浦町の第6次総合計画の基本構想及び基本計画の参考意見とするとともに、今後の「協働のまちづくりの中心的な担い手」としての意識の醸成、町政に対する意向や要望、行政との連携・協働の方向性を把握することを目的として実施。

日にち	平成29年9月20日(水)		平成29年9月21日(木)	平成29年9月30日(土)
時間	10:30	14:00	14:00	14:00
分野	子育て	まちづくり	福祉	まちづくり/子育て/福祉
団体数	3	1	5	1/2/2
場所	東浦町総合ボランティアセンター なないろ			
調査方法	調査シートを事前送付・記載内容を基にヒアリング実施			

2. 意見の内容

(1) 東浦町のまちづくりの課題・対応策

分類	課題	対応策
地域コミュニティ関連 【6件】	<ul style="list-style-type: none"> ●生活スタイルが変わり、個の主張が強くなっていて、地域コミュニティの存在が危ぶまれている。役場がボランティアに頼りすぎて育てようとする意識が感じられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 後から来た人に地域の文化や行事を共有できていない。行政が上から言っても、浸透しない。これをカバーするのが地域のつながり。それを行政がこういうことが大切だと、旗振りをするのが必要。 ● 歴史文化に限らず、地域の資源を活用。隠れた歴史的文化的価値のあるものを行政が旗振ってそれを見えるようにすべき。 ● 地域を知ることについて、子どもの教育も必要なのでは。大学のインターンシップでは遅い。小中学校のうちに見学会をすべき。 ● 「おだい祭り」を行事の当日だけで終わらすのはもったいない。桜まつりも含めた期間でおだい祭りとすべき。 ● 外国人との交流の場があるとよい
資金関連 【4件】	<ul style="list-style-type: none"> ●助成金や補助金の応募条件が厳しい。 ●助成金や補助金の情報提供が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 条件が緩いと応募しやすい。 ● 助成金補助金枠組みにもっと余裕が持てると助かる。

<p>情報提供関連 【 2 件 】</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 文化遺産、企業等社会資源、生活も含めてすべてを行政がもっと住民に対してPRすべき。 ● 住民の声を聞く窓口をつくるべき。サイレントマジョリティの声を聞く仕組みを作って欲しい。
---------------------------	--	--

(2) 行政との協働、連携に望むこと

<p>分類</p>	<p>行政とともに取り組みたい・拡充したい活動</p>	<p>取り組みを進めるにあたって望むこと・必要な支援</p>
<p>行政との協働について 【 16 件 】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政の地域の連携、情報共有については、関係が薄い。行政がもっと住民に頼ってもいいのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さな枠で載せてもらえることは知っているが、手続きがめんどくさい上、こんな小さいのを見ているかどうか。 ● 町と連携と言われても、何を求められているのかわからない。 ● むしろ町から求めて頂ければ、私たちも動きやすい。 ● ボランティアは求められるとやりがいがある。 ● ボランティアは集まる場合もあるが、指示がないと動けないことが多い。 ● 司令塔がほしい。そういう感じで町がボランティアに振って欲しい。 ● 力量をみながら、指令ほしい。 ● ボランティアは、言われたらやるので、こちらから要望を出すことはよっぽどでなければならない。 ● 行政が仕事を進めるためには部や課を作るが、そうは言っても縦割りになり、人の連携がうまくとれない。 ● 団体の連携について役場の中で情報共有ができてない。同じことを何度も聞かれる。役場もどんな団体があるのか何やってるのかくらいは知ろうとしてほしい。 ● 役場が「子育て関係だけ集まってもらおう」など役場の方でまとまってやってほしい。 ● 役場がもっと団体へ協力すべき。

		<p>役場が何かやって欲しければ、役場がもっと歩み寄るべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 役場職員は、紙面ではなく団体を自分たちの目で確認すべき。 ● 行政が意見を聞く場を定期的に設けるべき。 ● ボランティアが長く気持ちよく活動できるよう役場がもっと意見を聞いて活用すべき。
他団体との連携について【5件】	<ul style="list-style-type: none"> ● 他の団体の問題点や悩みを知らない。それをオープンにして交流するだけでも活動の幅が広がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 東浦の住民の地域のつながりを強める。行政は旗振りをして、他の団体や住民を活用し、それを束ねて大きなことにするのが役目。旗だけ示して、住民が動ける仕組みを作るべき。 ● 町内の他の団体をお願いしたいこともあるが、つながりがないため、頼みにくい。 ● 横のつながりは難しい。ある程度つながりのある団体や企画で役場が団体を集めるべき ● ボランティアと受け入れ側の意見交換の場がほしい。ボランティア側から受け入れ側への意見を言う場もほしい。お互いの気持ちを話す必要がある。意思疎通ができていない。
町による協力体制【2件】		<ul style="list-style-type: none"> ● チラシを作っても広報には載せていない。 ● 町からの手助けについては、活動そのものには特に手助け不要。運営資金が必要。

(3) 今後の取り組みに向けた人材の確保、育成の状況

分類	課題	対応策
町による協力体制【28件】	<ul style="list-style-type: none"> ● 講座をやれば残ってくれる人もいるが、支援がないため、講座が開設できない。 ● 次の世代を育てるのは今からしなければ間に合わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多世代が交流できる場所がほしい。 ● ボランティアフェスティバルのように勧誘できる機会がほしい。 ● ボランティアのポイント制を導入してはどうか。 ● 賛助会員制度の導入の検討。東浦のために活動する個人や団体を応

		<p>援しようという人を集める制度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 支援は、金銭だけでなく、音読には技術が必要なので、定期的に講座を開くといった支援がほしい。 ● 行政もボランティア団体があり、こうした活動をしているという情報を伝えることはできるはず。 ● 個人情報の壁は確かにあるが、少なくとも参加や頼る意欲のある当事者については、そういう人にボランティア団体を紹介することはできるのでは。 ● 行政は各団体とのネットワーク構築をして、情報を住民に発信する橋渡し役をしてほしい。行政が声かけをしてほしい。 ● 子どもへの教育について連携が必要。 ● もっとボランティアセンターをうまく使って、「ちょっとボランティア（ちょボラ）」のはじめの一步として、曜日を変えて、一人でも参加出来る状態で直接話が聞ける場、機会があればよい。 ● 最初のきっかけ作りが大事。気軽な講座などで体験談が聞ける場や、体験できる機会があるとよい。それを役場が考えて欲しい。 ● 定年後の方ももちろん、定年する前の仕事している人から声をかけるとよい。町が切り口さえつくればよい。 ● 町からの企画やイベントのお誘いや招待で返事のあった人に声をかけるのはよいではないか。 ● 「シルバー」「老人クラブ」という名前では定年直後くらいの人が入りにくい。ミドルシルバーなどの名前にすべき。 ● 65歳成人式などでアンケートがある。そのアンケートをもっと「特技」「やりたいこと」など項目を作って、答えてもらって声を掛け
--	--	--

		<p>るというの必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定年退職してすぐ、できれば、定年少し前の人から参加してもらえるとよい。年齢制限なく、若い人も。東浦町にある大きな企業に勤めている人もさそうべき。 ● 町の方から案内を出すのがよい。広報などに載せれば問い合わせがあるので、そこで声をかける。細かく丁寧に。漠然と広くやっつてはそういう人は拾えない。 ● 交流会などの場、イベントをすると良いのでは。ほとんどの人は、どんな団体があるのか知らない。まずそれを認知させる。 ● 町長にボランティアに参加してもらえると増えそう。管理職はかならず参加するなど、役場の積極性が必要。 ● 町長の参加が広報やパンフレットの表紙になるとかなりの PR になるのでは。 ● 子どもの時からボランティア参加の機会を作っていくべき。 ● ボランティア発表会などがあればよい。 ● 子どものやる気を起こさせるような仕掛けも必要。ケーブルTVに映すのもいい ● 広報の担当ももっと現場で情報を得て活用すべき。 ●モチベーションを上げる仕掛けを必要。 ● ちょボラの専用ページ（専用 PR 欄）を作るなどの PR が必要。
<p>行政との協働について 【 10 件 】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政は縦割りで、ボランティアとして参加する人間は同じなのに、町側の課が異なるのが困る。話が進まない。 ● 視覚障害者の団体については、1年に1回、社協主催交流会を行っている。福祉課も参加するが、参加するだけ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 色んな課の人とふれあうの必要。人対人なので、課ではなく人とつながりを持った方がよい。 ● 65歳～75歳の人材活用として、行政がまず旗振りをして、「やれ」ではなく「手伝って」と言われるとみんな動く。その仕組みを作るべき。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 地元で活動している人、自治会に情報ややるべきことが伝わらない。 ● なんでもかんでもボランティアに任せるのも問題。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアは手伝うと言っているのだから、それを頼って使って欲しい。 ● 組織ではないけど、連携できるネットワークがあれば良い。地域のネットワークがあったほうが、利用者当事者も助かるはず。 ● 行政が土台を作ってからボランティアにお願いすべき。 ● 窓口を一本化してほしい
情報提供関連 【 6 件 】	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚障害者のボランティアだが、利用者、当事者に活動や情報が届いているのか。町（福祉課）が届けようとしているのか。 ● 新しいボランティアはいても、視覚障害者の利用者が増えていない。個人情報保護が視覚障害者の利益になっているのか。 ● 個人情報を理由に、行政が仕事をしていないのではないのか。町が障がい者の日常の生活向上を考えているのか。 ● 利用者が少ない、当事者に情報を届ける努力をしているのか。同じ境遇の方の方がわかりあえる。行政は、行政然としていくのではなく、こうしたボランティアをしている障がい者、当事者を頼って、情報を広げるべき。 ● 同じ範囲の団体での懇親会などがあるが、行政からのメッセージ、活動報告がない。 ● 行政側がどうしたいのか、町としてはどういう方向に進みたいのか、を住民に伝え、それに対して賛否を話し合うのが協働ではないか。 	
団体による人材確保 【 4 件 】	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営の資金について、定年退職者を活用して、自分たちで運営の資金を稼ぐ方法はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアに来た方を、団体で扱うのではなく、個別に対応してあげるのがよい。まとめて扱うと男性は参加しないのでは？ ● 単純なボランティア募集では人は来ない。「勉強会」をやることで

		<p>集まった人に声をかけるという仕掛けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存の団体には入りにくいので、新しい人は立ち上げた方が早い。
--	--	---

(4) そのほか総合計画策定に際しての貴団体からの提案、要望

分類	課題	対応策
情報提供関連 【 11 件 】	<ul style="list-style-type: none"> ● 結果やあとの報告がないと、やりがいにつながらない。 ● 第5次総合計画について、人口減少はわかるが、それを見直すのであれば、これまで進めてきた計画の反省、変更がわかりづらい。 ● 総合計画の見直しについて、行政自身がどう考えているのか？ 行政がどう話をしているのか、個々の修正ではなく3年前倒しするというのは、計画がまずかったからと受けとめられる。 ● 総合計画は5年-10年単位だが、町長は4年毎。その整合性はどうか？ ● 役場には意見を言っても返ってこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後どうなるか、といった報告がほしい。やりっぱなしではなく、無理なら無理で報告がほしい。 ● 「こういうことをやりました」という報告は良く見かけるが、それがその後どうなったか、成果まで情報発信ほしい。 ● 行政の報告はわかりにくい。「取り組み」と言われてもどんな取り組みかをちゃんと書いて欲しい。 ● 総合計画の自己評価はHPで発信しているが、もっと住民に対してアピールする必要がある。 ● 住民にわかりやすく伝える工夫が必要。誰に対して何を伝えるか。かしこまった場では物も言いにくい。萎縮してしまう。意見を言う気がなくなる。情報を伝え、意見をくみ取る工夫が必要。 ● 行政からの活動、結果、状況報告がない。ダメならダメでその報告がほしい。その上で、当事者やボランティアにどうしてほしいかというべき。
その他 【 18 件 】	<p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 託児については母親から好評。しかし、託児場所が貧弱。 ● オモチャを保管する場所がなく、現在うららん地下倉庫を借りている。オモチャを保管できる託児場所があると良いと思う。 ● はなのき会館研修室で託児を行うことがあるが、危険な物が多く、託児には適していないと思う。 ● 文化センターは託児するには、あまりに危ない。 	<p>取り組みを進めるにあたって望むこと・必要な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出し入れしやすい団体の場所がほしい。環境の整った活動場所が必要。 ● 町の常設の使っていない建物をもっと条件緩く使えるようにしてほしい。 ● 常設の居場所が必要。ご飯が食べられて、落ち着けて話のできる場所が欲しい。町の空いてる建物や公民館の一室を開放して欲しい。 ● 公民館の利用などは垣根が高いの

	<ul style="list-style-type: none"> ● 支援センターで借りられたが、手続きが大変。 ● 文化協会には 170 万円補助金が出ている。その中のカメラの同好会など、そんな個人の趣味に税金を出すのか。 ● 税金の使い方、公平性、公正さには問題がないか。そこを行政に考えてほしい。 ● スピード感が足りない。 ● ボランティアは「タダで働く人」という認識が行政にあるのでは。 ● 本当に必要な人が訴えても「条件にあてはまっていない」等聞き入れてもらえない。 ● 本当に町民の状況を見て判断してほしい。縦割り、杓子定規の対応をやめてほしい。 ● 町の施設のルールが厳しすぎる。音を出してはダメだとか、いろいろ制約が多い。やってほしいなら、もっと柔軟な対応すべき。 	<p>で、もっとハードルを低くしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 若い人の意見をもっと引き出して子ども会や婦人会などを変えていく、というのを役場が主導すべき。 ● 若者会議等が出た意見に実際に予算をつけて実行する、というのを公にするとモチベーションが上がる。
--	---	---

参考 1 基本情報及び団体の取り組み状況

分野	子育て関連団体					まちづくり	
団体名	森岡台おはなし広場	託児ボランティアおひさま	東浦町子育てネットワーク	キャラメル♪	こもれび	東浦ふるさとガイド協会	押し花グループ ミモザ
活動年数	41 年目	14 年目	15 年目	7	15	9	14
構成員	合計	8	24	15	9	30	42
	男						35
	女	8	24	15	9	30	7
	平均年齢	68	49	50	60	65	73
活動頻度	週 1 回程度	月 3 回程度	月 2 回程度	月 1 回程度	週 1 回程度	年 40 回程度	月 2 回程度
主な活動場所	東浦町全域	東浦町全域	東浦町全域	東浦町の一部 (2 階イオンホール)	東浦町の一部 (藤江、図書館)	東浦町全域	東浦町全域
活動の分野	福祉	福祉	福祉	その他(ぶちフェスタ、わくわく広場)	福祉、教育・青少年健全育成	福祉、地域コミュニティ、生涯学習、その他(東浦の歴史文化など)	福祉、生涯学習・文化芸術
団体の取り組み	実施している活動の内容	<p>保育園、小学校、デイサービス等での読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育てサークル活動、お母さんのリフレッシュのためのイベントや講座、行政主催の子育てに関する行事等の託児 ●毎月第 3 木曜日に親子の遊び場「おひさまひろば」を開催 ●毎月第 3 木曜日(原則)に定例会を開いてメンバーの相互理解を図っている 	<p>毎月 1 回、イオンモール東浦内(2 階イオンホール)で子どもをもつ親同士の交流の場として「ぶちフェスタ、わくわく広場」を運営する。</p>	<p>週 1 回 藤江児童館(金)よみきかせ 16:30~17:00</p> <p>図書館 第 1 第 3 水曜日 11:00~11:30</p> <p>オファーがあれば、寝 1 回くらい保育園に行きます。(ブックスタートのお手伝い)</p>	<p>主にデイサービス等の福祉施設で押し花の小物作り体験をしている。</p>	<p>町内の歴史・文化を主とした</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ふるさとガイド」や「ふるさと散歩」、「ふるさと講座」研修会 ②小・中学校における郷土学習 ③高齢者の「デイサービス」、「いきいきサロン事業」支援 ④於大祭りに協賛した乾坤院ガイド、於大のみち桜(八重桜)ガイド ⑤産業まつりに協賛した「ふるさとクイズ」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習課主催のリフレッシュ教室時の託児やサークル立ち上げ時の助言など(年 6 回) ●保健センター 4 ヶ月児検診時の赤ちゃん見守りや相談相手(月 1 回) ●定例会(月 1 回) ●支援者対象勉強会(年 1 回) ●於大まつりまたは福祉祭りへの参加(年 1 回) ●養成講座(H28 年度は 3 回開催)
	今後の取り組み予定	<p>依頼のあった施設へ行きたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メンバーのほとんどが子育て中で、なおかつ仕事を持っている者が多く、時間(仕事)をやりくりして活動に参加している。 ●メンバーを増やすため、また、自分たちのスキルアップのため、来年度の養成講座を計画中である 	<ul style="list-style-type: none"> ●親子のみならず、三世代がゆっくりお買い物ついでにくつろぎながら過ごせる広場で地域全体での子育て w p 目指し、見守りながら楽しく子育て環境の充実のために運営している。 ●各地域(町内)に親子のみならず、三世代と一緒に過ごせる「あそびの広場」を広げていきたい。 	<p>現状維持です。</p>	<p>現状では 2~3 人で役 20~30 名の方の作品制作をお手伝いしている。教室加入の生徒さんの有志で取り組んでいるが、今後はボランティアのんみの活動をしてくださる会員を作って展開していきたい。</p>	<p>上記の事業を行ってきたが、平成 30 年度に 10 年目の節目を迎えます。現在、町政 70 周年記念「東浦おだいちゃん検定」を観光協会と 6 月から計画。主催：観光協会 後援：商工会、文化協会、JA 知多、ふるさとガイド協会の予定 本番：平成 30 年 7 月 22 日(日) 勤労会館、プレ検定：今年の産業まつり 最終的に住民の皆さんに「郷土愛を育んで頂く」ことになれば幸いである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●福祉実践教室(妊婦体験&赤ちゃんふれあい) 社協より来年度からの依頼あり ●ママたちの座談会 4~6 名程度のママたちで子育てについての悩みや迷いを話せる場を作る。人に話すことで心のモヤモヤが軽くなったり、自分だけではないないと安心したり心にゆとりを持てるのでは…と考えている

分野		福祉						
団体名	点訳サークルあいりす	音訳ボランティアアイアイ	視覚障害者ガイドボランティア ほたるの会	認定NPO法人 絆	オレンジパラソル	東浦町介護者の会	琴わ会	
活動年数	19	22	21	24	3	13	6	
構成員	合計	6	16	113	15	13	13	
	男			18	2	2	5	
	女	6	16	95	13	11	8	
	平均年齢	65	50~70	54.4	65	73	62	
活動頻度	月2回程度	月4回程度	月6回程度	365日	週1回程度	月1回程度	月1~2回程度	
主な活動場所	東浦町及び隣接市町村	東浦町全域	東浦町及び隣接市町村	東浦町及び隣接市町村	東浦町全域	東浦町の一部	東浦町及び隣接市町村	
活動の分野	福祉	福祉(障がい者)	福祉、生涯学習・スポーツ・文化芸術	福祉	福祉、防犯防災・交通安全	福祉	福祉、地域コミュニティ、生涯学習・文化芸術	
団体の取り組み	実施している活動の内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 依頼された文書の点訳 ● 福祉実践教室 	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚障がい者のための「声の広報」作成 ● 広報ひがしうら、ひがしうらのふくし、ひがしうら議会だよりを読んで録音 ● その他依頼があれば要望のものを音訳 ● 今年1月より声の広報の音源を提供し、町HPに載せている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民互助の助け合い ● コミュニティカフェ ● さをり織の講座など 	認知症の方、及びその家族の方たちへの理解、サポーターとしての認知症の啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ①毎月1回、介護の悩みを話し合ったり講師を招いて学習したり、リフレッシュのための体を動かす等の活動をしています。 現役介護者が普段話せない介護について(介護経験者だからわかる)悩み、辛さ等を話せる場所にしたいと思っています。 ②年1回の会報「ほっとハート」発効 	<p>母体は”こもれび”という絵本の読み聞かせや活動のボランティア団体で、その中のメンバーで立ち上げた団体。</p> <p>大正琴のアンサンブル演奏(ソプラノ、アルト、テナー、ベース)で障がい者、高齢者施設、小学校に出向き、童謡、唱歌、懐かしの歌謡曲を演奏している。同時に、曲の間に紙芝居、昔話、クイズなども取り入れている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 月例会 ● 日常生活のガイドヘルプ=散歩、コインランドリー、買い物、外食、コンサートや講演会、催し物などへの外出サポート ● 小中高校の福祉教室などの福祉授業へガイドヘルプと点字の講師として協力 ● 虹いろフェスタに点字体験コーナー開設 ● 俳句の会に月3回同行同席 ● ハイキング、ウォーキング、知多四国巡りなどにガイド同行
	今後の取り組み予定	点字とはどういうものか知ってもらいたい	現状では月2回の声の広報作成に追われ、なかなか新しい取り組みまでは行えていない。今後活動できる人材が育成され、活動可能な会員が増えれば、音訳図書を作成を行いたいと考えている	会員制の垣根を低くし、誰でも参加しやすい活動を展開したい	<ul style="list-style-type: none"> ● 東浦町全小中学校への認知症サポーター養成講座のお手伝い(オレンジ劇団) ● 保険センター主催の脳トレサポーター ● 社協主催の認知症カフェのお手伝い ● 認知症の勉強会、研修 ● 防犯、交通安全などの啓蒙(劇団) 	高齢者の増加に伴い、 ①今後の健康を維持していくには… ②独居老人になってしまっから… プライバシー保護の関係から難しかも?	全員が仕事をしながら、また、こもれびの活動で図書館、小学校、児童館での活動があるため、時間にセイヤ宇されるので全てのリクエストを受け入れられない状態ではあるが、早めの予約をしていただくなり、できるだけお受けできるようにしている。 今後は、国際交流にも貢献できる活動もしていきたいと思う。	視覚障がい者とボランティアの高齢化のため、新規加入者を増やすこと

東浦町第6次総合計画策定のための各種団体ヒアリング調査シート

【団体用】

団体名		
代表者氏名		
記入者氏名		
連絡先	電話	
	F A X	
	E-mail	@

(1) 基本情報

① 活動年月(数字を記入)		② 構成員の状況(数字を記入)	
()年目		構成員 ()人	
		内 男性 ()人	
		女性 ()人	
		構成員の平均年齢 ()歳くらい	
③ 活動の頻度(数字を記入)			
1 週 ()回程度			
2 月 ()回程度			
3 年 ()回程度			
④ 主な活動場所(○はひとつ) ※一部地域で活動している場合は()内に地域名等を記入			
1 東浦町の一部 ()		3 東浦町および隣接市町村	
2 東浦町の全域		4 「3」以外の愛知県内	
		5 その他 ()	
⑤ 活動の分野(○はいくつでも)			
1 国際交流・多文化共生		7 環境保全・環境美化	
2 人権・男女共同参画		8 景観づくり	
3 健康づくり		9 防犯・防災・交通安全	
4 福祉(児童・高齢者・障がい者)		10 教育・青少年健全育成	
5 地域コミュニティ		11 生涯学習・スポーツ・文化芸術	
6 産業振興		12 その他 ()	

(2) 団体の取り込み状況

① 実施している活動の内容

② 貴団体の現状及び今後の取り組みの予定（活動内容の拡大・展開など）について

(3) 東浦町のまちづくりの課題、対応策

① 団体活動を通じて感じられる東浦町におけるまちづくりの課題・問題点について

② 課題や問題点に対し望まれる対応策について

(4) 行政との協働・連携の方向性や望むこと

① 行政とともに取り組みたい・拡充したい活動

② 上記の取り組みを進めるにあたって望むこと・必要な支援

(5) 今後の取り組みに向けた人材の確保・育成の状況

① 人材の確保の状況・課題

(6) その他

① 総合計画策定に際しての貴団体からの提案、要望